

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・音楽科 2年	現代文B	2	標準現代文B（第一学習社）	佐藤・信藤

(学習目標)

- ・様々な作品に触れることで国語に親しみ、文章を主体的に読む力を養う。
- ・本の帯作りや短歌創作を通して豊かな表現力を養う。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学 期	4	①「わたしはあなただったか もしれない」 ②「新しい地球観」	12 時間	①随想に親しむ ②評論に親しむ。地図が作る「世界の見方」について考える ①②語句・漢字の理解と習熟 具体例と抽象的な記述の関係を理解
	5	・中間考査		
	6	③「私」という「自分」 ④「デューク」	16 時間	③随想に親しむ 語句・漢字の理解と習熟 ④小説の読解 登場人物の心情と、それに伴う行動を理解する
	7	・期末考査 ①「ヒトはなぜヒトになったか」		①評論の読解 具体例と抽象的な記述の関係を理解する
2 学 期	8	②「情けは人の…」	10 時間	②評論の読解 自らの言葉の使い方を振り返る。 本文に線引きをしながら、読解を深める方法を身につける
	9	③「ナイン」 ・中間考査		③小説の読解 語句・漢字の理解と習熟 作品の主題を読み取る
	10	④「名所絵はがきの東西」	14 時間	④評論の読解 語句・漢字の理解と習熟 西欧との比較を通して、日本人の美意識への理解を深める
	11	⑤「鼻」 ・期末考査		⑤小説の読解 語句・漢字の理解と種塾 主人公の人物像・心情の変化を読み取る
	12	①「永訣の朝」		①詩に親しむ 表現の特色、作者の心情を理解する
3 学 期	1	②「こころ」	14 時間	②小説の読解 語句・漢字の理解と習熟 登場人物の性格・心理・行動を読み取る。
	2		合計 64 時間	小説の書かれた時代について正確に理解をする
	3	・期末考査		

(評価方法)

- ・定期考査実力考査の点数を基準とし、学習意欲・提出物等を考慮して総合的に評価する。
- ・学期の5分の1以上の欠課は評定を1段階以上下げる。
- ・特定の課題については、不達成の場合評定を「1」とする。
- ・特に達成度の低い者は評定を「1」とする。

(備考・注意事項)

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
2年	古典B	3	古典B（第一学習社） 体系古典文法（数研出版） プレミアムカラー国語便覧（数研） 全訳古語辞典（大修館）	青木・信藤

(学習目標)

- ・古典文学や漢文を読むことで日本や中国古来の文化等に親しみ、ものの見方・感じ方を広げる。
- ・古典文法を身につけ、作品を正確に理解する。
- ・漢文訓読が出来るようになる。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点		
1 学 期	4	①『古本説話集』平中が事 ②『十訓抄』大江山 ③文法事項の確認	18 時間	①②鎌倉時代の文章を通して古文に親しむ 一年次既習事項の確認 説話文学についての理解 ③用言の復習と助動詞の理解		
	5	・中間考査		15 時間	④説話文学および和歌への理解 人物関係を整理し、和歌の役割を理解する	
	6	④『古今著聞集』文字一つの返し ⑤文法事項（敬語） ⑥文法事項の確認（漢文） ⑦「朝三暮四」	⑤敬語法の理解と習得 ⑥一年次既習事項の確認 ⑦故事成語のもとになった故事や逸話に関心を持つ 句形の理解と訓読の習得			
	7	・期末考査	①『枕草子』「うつくしきもの」		①随筆に親しむ ものの見方・考え方を理解する	
	2 学 期	8	②『方丈記』ゆく川の流れ ③『徒然草』公世の二位のせうとに ④「画竜点睛」「推敲」		21 時間	②③随筆に親しむ 三大随筆の特徴を理解する ④漢文に親しむ 句法・重要語句の習得 文章の展開と内容が理解できたか
		9	・中間考査			④歌物語への理解 和歌の役割への理解、敬語の習得
		10	⑤『中国の詩』 ⑥『伊勢物語』初冠・通ひ路の関守・小野の雪	24 時間	⑤漢詩に親しむ 近代詩の決まりを理解する 作者の心情を的確に理解する	
11		・期末考査	⑥歌物語への理解 和歌の役割への理解、敬語の習得			
12	①『万葉集』	①和歌に親しむ それぞれの時代背景や表現上の特徴を理解する				
3 学 期	1	①続き『古今和歌集』『新古今和歌集』	27 時間	①和歌に親しむ それぞれの時代背景や、表現上の特徴を理解		
	2	②論語		②中国の思想に親しむ		
	3	・期末考査	合計 105 時間			

(評価方法)

- ・定期考査実力考査の点数を基準とし、学習意欲・提出物等を考慮して総合的に評価する。
- ・学期の5分の1以上の欠課は評定を1段階以上下げる。
- ・特定の課題については、不達成の場合評定を「1」とする。
- ・特に達成度の低い者は評定を「1」とする。

(備考・注意事項)

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科：2年	地理歴史：世界史A	2	世界史A (東京書籍) 世界史A ワークノート (東京書籍) ダイアログ世界史図表 (第一学習社)	金子

(学習目標) ◇世界史の大きな流れを理解する。
◇社会の発展に向けて努力してきた各時代の人々の姿を学習する。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	①人類の始まり	12 時間	①サルからヒトへの進化を理解する。 ②ヨーロッパ世界の源流を理解する。 ③キリスト教とのかかわりから、現在にいたるまでの問題を考える。 ④ヨーロッパとアジアとのつながりを理解する。	
	5	②古代地中海世界の歴史 ③中世ヨーロッパ世界の歴史			
	6	④大航海時代のヨーロッパ ・中間考査			
	2 学 期	7	⑤主権国家の形成 ・期末考査	10 時間	⑤主権国家とは何かを理解し、さまざまな政治体制について考える。 ⑥市民革命による民主主義思想の発展を理解する。 ①産業革命のもたらした影響について理解する。
		8	⑥ヨーロッパとアメリカの諸革命		
		9	①産業革命		
		10	・実力テスト ②アジア・アメリカと植民 ・中間考査 ③ウィーン体制とその動揺		
3 学 期	11	④国民国家への道	16 時間	④国民国家が形成されるまでの流れを理解する。 ⑤世界史の中で、アジア諸国はどのような影響を受けたのか理解する。 ⑥世界大戦に至るまでの帝国主義について理解する。 ①帝国主義時代の開始を理解する。	
	12	⑤アジア諸国の変容 ・期末考査			
	1	⑥帝国主義の時代 ①第一次世界大戦と世界 ・実力テスト			
	2	②戦後秩序の形成と経済危機			
3 学 期	3	③第二次世界大戦の勃発 ④戦後世界 ⑤現代の世界情勢 ・学年末考査	18 時間 年間 合計 70 時間	②大戦後の世界秩序形成と、なぜそれが崩壊していったのかを理解する。 ③戦争と平和の時代を理解する。 ④冷戦の時代の情勢を考える。 ⑤現代世界の問題を理解する。	

(評価方法)

- ① 定期考査・実力テストの点数と各学期ノート点を基準とする。
- ② 授業態度・提出物などが良好でない場合、及び欠課時数が5分の1以上でサボリ・怠惰などによる場合は評定を1～2段階下げる。
- ③ 1・2学期においても欠課が学期の3分の1以上の場合は「1」とする。

(備考・注意事項)

◇世界地図やビデオ教材などを活用し、世界各地の歴史のイメージを豊かにしたい。

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科 1年・2年	数学・数学 I	2 + 2 単位	最新 数学 I (数研出版) パラレルノート数学 I・A (数研出版)	山浦 (1年次) 山浦 (2年次)

【学習目標】 「数と式」「2次関数」「図形と計量」「データの分析」について学習する。
基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、
数学的な考え方の良さを認識できるよう学習を深める。

学年	学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 年	1 学 期	4	第1章 数と式	12時間	①基本的な展開ができる。	
		5	①式の展開と因数分解 ・中間考査			
	2 学 期	6	①式の展開と因数分解 ・期末考査	10時間	①基本的な因数分解ができる。	
		7 8 9	②実数 ③1次不等式 ・中間考査	14時間	②無理数の概念が理解できる 基本的なルートの計算ができる。 ③1次方程式および1次不等式を解くことができる。	
	3 学 期	10 11	2章 集合と論理 3章 2次関数 ①2次関数とそのグラフ ・期末考査	16時間	④必要条件・十分条件・必要十分条件を理解する。 ①2次関数の頂点を求めグラフの概形を描くことができる。	
		12 1 2	②2次関数の最大最小 ③2次方程式・2次不等式 ・期末考査	18時間 年間 70時間	②2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ③グラフと関連づけて2次不等式を考えることができる。また解くことができる。	
	2 年	1 学 期	4 5	第4章 図形と計量	12時間	①三角形の比の関係について基本的な事項を学ぶ。
			6	①三角比 ・中間考査		
		2 学 期	7 8 9	②図形の計量 ・中間考査	10時間	②公式を用いて三角形の辺の長さや角度を求められるようにする。
10 11			第5章 データの分析 ①データの分析 ・期末考査	14時間	②公式を用いて三角形の辺の長さや角度を求められるようにする。	
3 学 期		12 1 2	数学 I の総復習 ・学年末考査	16時間	①データの分析ができるようにする。	
		12 1 2	数学 I の総復習 ・学年末考査	18時間 年間 70時間	数学 I の学習内容がどの程度定着できているか確認しながら進めて行く。	

【評価方法】 定期考査の点数・出席状況・授業態度・提出物の状況を総合的に判断して評価する。

(備考・注意事項)

2年 生物基礎シラバス

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科・2年	理科・生物基礎	2	数研出版 生物基礎 浜島書店 ニューステージ 生物図表 数研出版 リードLight/ト生物基礎	加藤
<p>(学習目標) 自然の事物・現象に関する観察・実験などを通して、生物とはどのような存在か、どのようにして生きているかを理解する。さらに自ら調査を行い、理科にかかわる正しい情報の集め方を知り、成果発表をする中で科学的な自然観と基本的な理科への興味と好奇心を育成する。</p>				
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学 期	4	第1章生物の特徴 1 生物の多様性と共通性	12時間	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性と共通性の理解。細胞についての理解 ・生物は物質とエネルギーを用いて生命活動を行っていることへの理解。光合成及び呼吸についての理解。
	5	2 エネルギーと代謝 3 光合成と呼吸		
	6	第2章遺伝子とそのはたらき 1 遺伝情報とDNA 2 遺伝情報の発現 ・期末考査	8時間	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子の本体であるDNAの構造と情報のしくみに関する理解。遺伝情報をもとにタンパク質が合成されることへの理解。遺伝情報は次の世代へと伝えられていることへの理解。 ・細胞分裂の仕組みを理解する。
	7	3 遺伝情報の分配	4時間	
2 学 期	8	第3章生物の体内環境 1 体液という体内環境	12時間	<ul style="list-style-type: none"> ・多細胞動物において、重要な体内環境である体液についての理解。 ・体内環境を一定に保つための調節 ・しくみについての理解。神経系、内分泌系の各特性についての理解。
	9	2 腎臓と肝臓		
	10	3 神経とホルモンによる調節		
	11	4 免疫 第4章植生の多様性と分布 1 さまざまな植生 2 植生の遷移 ・期末考査	6時間	<ul style="list-style-type: none"> ・からだを守るしくみの理解。 ・地球にはさまざまな植物集団(植生)が存在すること、それぞれの構造や変化の様子について理解。 ・植生と気候との関連の理解。
12	3 気候とバイオーム	8時間		
	3 気候とバイオーム	4時間		
3 学 期	1	第5章生態系とその保全 1 生態系 2 物質循環とエネルギーの流れ 3 生態系のバランス 4 人間活動と生態系の保全 ・期末考査	16時間	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系の成り立ちの理解。 ・生態系では物質やエネルギーの移動がみられ、そのバランスが重要であることへの理解。 ・生態系のバランスには人間活動が大きく関わっていることへの理解。
<p>(評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考査の得点、平常点(授業に臨む態度等)および提出物等を総合して評価する 				
<p>(備考・注意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期内で欠課時間数が1/5を超える場合は、評価を1段階以上下げる 				

学校番号	課程
37	全日制

R4 シラバス (年間指導計画)

(別記様式2)

小諸	高等学校	全日制	課程	音楽科	学科	全校生徒数	479 (413)	人	学級数	3 (15)	学級	保健体育科職員	5	人
----	------	-----	----	-----	----	-------	-----------	---	-----	--------	----	---------	---	---

()は普通科

◎学校教育目標

(民主的な社会の進歩に貢献できる全人的な人間の育成を目指す。)
 社会的関係の中で自己実現を果たしていくために、それぞれの場面で自ら目的を設定し、その実現のために積極的に行動していく主体性を持った生徒の育成を図る。
 ①自分から目的を設定し、積極的に行動していく「主体性」
 ②社会の一員としての自覚と他者の立場を尊重しよりよい人間関係を形成する「社会力」

◎保健体育科目標

- ・ 自主自律の精神の育成 (ルールの遵守・他者への気づき・授業への取り組み)
- ・ 体力の向上 (日常生活・社会生活を送る上での基礎体力の向上・健康の保持増進)
- ・ 運動の楽しさに触れる (生涯スポーツ・趣味等の観点)

科目	学年	単位数	1学期																																			2学期																																			3学期																																		
			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月																																																																							
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35																																																																						
体	1年次	3	男子	オリエンテーション	A体づくり+身体測定 (新体力テスト)	A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論 フトボール)			ク ラ ス マ ツ チ			E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン			H 体 育 理 論			E球技 卓球・バスケットボール																																																																																			
		女子	A体づくり+身体測定 (新体力テスト)	A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論 レーボール)			ク ラ ス マ ツ チ			E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン			H 体 育 理 論			E球技 卓球・バスケットボール																																																																																					
	時間	70	2	10	10	10	3	10	10	6	9																																																																																																
育	2年次	2	男子	A体づくり運動+身体測定 (新体力テスト)	A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論 フトボール)			ク ラ ス マ ツ チ			E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン			H 体 育 理 論			E球技 卓球・バスケットボール																																																																																				
		女子	A体づくり運動+身体測定 (新体力テスト)	A (体づくり運動) ~ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)			D 水泳 (体育理論 レーボール)			ク ラ ス マ ツ チ			E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン			H 体 育 理 論			E球技 卓球・バスケットボール																																																																																					
	時間	70	12	10	10	3	10	10	6	9																																																																																																	
育	3年次	3	男子	A体づくり運動+身体測定 (新体力テスト)	選択① (新体力テスト) バレーボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			D 水泳 (体育理論 フトボール)			ク ラ ス マ ツ チ			選択② バスケットボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			E球技 バドミントン			選択③ フットサル 卓球 ソフトバレー フロアホッケー																																																																																							
		女子	A体づくり運動+身体測定 (新体力テスト)	選択① (新体力テスト) バレーボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			D 水泳 (体育理論 フトボール)			ク ラ ス マ ツ チ			選択② バスケットボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			E球技 バドミントン			選択③ フットサル 卓球 ソフトバレー フロアホッケー																																																																																								
	時間	105	18	16	12	3	6	15	20																																																																																																		
保	1年次	1単位	オリエンテーション	筋肉系骨格系	「現代社会と健康」 1 健康の考え方と成り立ち~ 5 がんの治療と回復			期 末 テ ス ト			「現代社会と健康」 6 運動と健康~ 1 9健康に関する環境づくり			期 末 テ ス ト			「安全な社会生活」 1 事故の現状と発生原因~ 6 心臓蘇生法			期 末 テ ス ト																																																																																							
	2年次	1単位	「現代社会と健康」 19安全な交通社会つくりとその基本~ 日常的な応急手当			期 末 テ ス ト			「生涯を通じる健康」 6 加齢と健康~ 1 1さまざまな保健活動 や対策			「社会生活と健康」 1 大気汚染と健康~ 9 健康的な職業生活			期 末 テ ス ト			レポート 学習ガイ ダンス			レポート学習・製本・発表・まとめ			期 末 テ ス ト																																																																																			
体育的な学校行事等を記入)		(期日)	7/2 (土) 体育祭 9/7 (水) ~ 9/8 (木) クラスマッチ (球技)																																																																																																								

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽・2年		コミュニケーション英語Ⅱ	3	Power on English CommunicationⅡ東書 準拠ワークブック	斎藤
<p>(学習目標) 1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 書いたり話したりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。</p>					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	4月テスト ① Lesson 1 関係代名詞、 現在完了進行形	1 8 時間 (6×3)	①②に共通して 1. 様々な話題に関する英文に触れる。 2. 学年までで学習した文法事項に気づきながら英文を読み進めることができる。 3. 新出単語や新出表現を学び、それらを使って書いたり、話したりすることができる。 4. 話題について、自分の意見をまとめることができる。	
	5	②Lesson 2 SVO、強調構文、 助動詞+受け身 中間考査 ALTの英語授業2時間			
1 学 期	6	③Lesson 3 関係副詞、 過去完了形	1 5 時間 (5×3)	③④に共通して、①②の学習内容の到達事項を達成した上で、 5. 英語のT・F問題を自分なりに答えることができる。	
	7	④Lesson 4 非制限用法、 SVOC (知覚動詞) ALTの英語授業1時間			
2 学 期	8	⑤Lesson 5 分詞構文、 倍数表現 実力テスト	2 4 時間 (8×3)	夏期休業中の課題で1学期の知識定着を図り、教科書の読解を進めると共に、⑤⑥に共通して、①～④の学習内容の到達事項を達成した上で、 6. 英語のQAをグループで相談して答えることができる。	
	9	⑥Lesson 6 進行形の受け 身、未来完了形 ALTの英語授業3時間 中間考査			
2 学 期	10	⑦Lesson 7 前置詞+関係 代名詞、同格を表 す接続詞	2 1 時間 (7×3)	⑦⑧に共通して、①～⑥の学習内容の到達事項を達成した上で、 7. 英語のQAを自分の力で答えることができる。 8. 話題について、グループで自分の意見を言うことができる。	
	11	⑧Lesson 8 付帯状況with, to have 過去分詞 ALTの英語授業4時間 期末考査			
3 学 期	12	⑨Lesson 9 強調表現、形式 目的語	2 7 時間 (9×3)	⑨⑩に共通して、①～⑧の学習内容の到達事項を達成した上で、 9. 英語と日本語で要約ができる。 10. 話題について、グループで討論し、グループとしての意見をまとめて発表できる。	
	1	実力テスト ⑩Lesson 10 be to do, 仮定法過去			
	2	期末考査 問題演習			
<p>(評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト・小テスト・提出物・授業態度などを踏まえ、総合的に評価する。 ・各学期毎の欠課時数1/5オーバーに対しては評価を減点する。 					
<p>(備考・注意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2週に1回のALTによる英語運用の実際的な機会を設け、習得したものを活用してみる。 ・教科書材料を元に自学自習の「スタイル」を作れるように工夫する。 ・異文化の理解の「見方」を体験させ、他者との意見交換の大切さを理解するよう工夫する。 					

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・音楽科 2年		英語表現Ⅱ	2	EMPOWER English Expression II (桐原) 準拠ワークブック	斎藤千・宮島・ 山浦雄
(学習目標)					
① 英語を理解するための基礎的な文法知識・運用能力を身につける。 ② 学んだ文法事項や表現を活かしてコミュニケーションに繋げようとする姿勢・態度を育成する。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	Part 1 Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3	1 2 時間 (6×2)	文構造及び基本的な時制や構文など、これまでの既習事項を確認しながら、簡単なアクティビティーを通して表現の運用能力を高める。英語で部活や趣味・旅行・ニュース・料理などについて書く・話す機会を設け、積極的に英語を使用する。SVOCの文章や完了形など難しい表現もペアワークやドリルで運用能力を養う。	
	5	Lesson 4 Lesson 5 ・中間考査			
	6	Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10 ・期末考査	1 0 時間 (5×2)	進行形や未来表現、受け身、助動詞など、異なる述語動詞の形に注意して、学校生活や行事、観光名所について、英語で説明したり、英語で新聞記事や手紙・メールを書く。またペアワークやグループワークを通し、内容について質問をしたり、自分の意見を伝えたりする。リスニング教材も活用し、聞く力も養う。	
2 学 期	8	Lesson 11 Lesson 12 Lesson 13	1 4 時間 (7×2)	名詞・形容詞の働きをする語句や節について理解し、英作文等で活用する。グラフの読み取り、グリーティングカードの作成に加え、関係詞を用いて少し長い英作文にも挑戦して、将来の夢、映画や地域の紹介をする。 ディクテーションやペアワークで暗唱し、活用できるように練習する。	
	9	Lesson 14 ・中間考査			
	10	Lesson 15 Lesson 16 Lesson 17 Lesson 18 Lesson 19 ・期末考査	1 6 時間 (8×2)	副詞の働きをする語句や節について理解し、分詞構文や否定、様々な比較表現を学び、活用できるようにする。日本の文化や地域の特産物、クラブ紹介などについて、新聞への投書や広告などを作成し、様々な表現方法を習得する。アクティビティーを取り入れて、表現の運用能力を高める。	
3 学 期	12	Lesson 20 Part 2	1 8 時間 (9×2)	仮定法を用い、アドバイスを求める表現を学び、メールを書いたり、学んだことを活かし、パラグラフ構成に注意して、すこし長めのまとまった英文を書く。ペアワークやグループワークを通して、他人の意見も参考に、時間・分類・比較・原因などの観点から、相違点や具体例・因果関係を挙げて説明し、自分の意見をまとめる。みんなの前でスピーチをしたり、他の人のスピーチの評価も体験する。	
1	Lesson 1 Lesson 2				
2	Lesson 3 Lesson 4				
3	・学年末テスト 演習	年間合計 7 0 時間 (35×2)			
(評価方法)					
学習目標の到達度(含むアクティビティ)・定期テスト・提出物・授業態度などを踏まえ、総合的に評価する。 また、リスニング教材も活用し、評価に加える。 各学期の欠課時数1/5オーバーについては、評価を減点する。					
(備考・注意事項)					
学んだ文法事項や表現を使用・確認する場面を授業内で作り、繰り返し学習できるよう工夫する。					

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通科・音楽科 2年		家庭科・家庭基礎	2	教科書 新版 高等学校 家庭基礎 (第一学習社) 副教材 学習内容のまとめ作業 新版家庭基礎学習ノート (第一学習社) 2022生活ハンドブック 資料&成分表 (第一学習社)	松澤 智子
(学習目標)					
<ul style="list-style-type: none"> 家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のありかた、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術を身につける。 生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。 					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	家庭基礎を学ぶにあたって 【第1章 これからの生き方と家族】 【第9章 生活をデザインしよう】 ①生活時間 1節 青年期を生きる ①自分らしい人生～ ④男女平等と相互の協力	1 時間 10 時間	<ul style="list-style-type: none"> 家庭基礎を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、レポートの書き方などの学習方法、評価の方法を理解する。 緊急時の対応について考え、実践する力を養う。 各ライフステージおよび青年期の特徴と課題を理解する。 生活するための労働と現代の働き方について考えさせる。 家族の形態・関係・法律について知り、家庭や職場の中での男女平等について、法律や制度の整備、意識の変革をしていくことの大切さに気づかせる。 	
	5	2節 家族・家庭と社会のかかわり ①家族とは？家庭とは？～ ④家族に関する法律 ・中間考査	8 時間	<ul style="list-style-type: none"> 契約、多様な販売方法、問題商法について理解する。また、被害にあった場合の解決方法についても理解する 消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性を理解する。 短期間の収入と支出の特徴を学ぶ。長期の経済設計の必要性について理解する。 	
	6	【第8章 経済生活を営む】 2節 消費者問題を考える①～④ 1節 私たちの暮らしと経済①～③ 3節 持続可能な社会をめざして ・期末考査	3 時間	<ul style="list-style-type: none"> 社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。 	
	7	【第4章 ともに生きる】①②			
	8	【第2章 次世代をはぐくむ】 1節 子どもの発達①～⑤	5 時間	<ul style="list-style-type: none"> 保育を学ぶ意義について学習する。青年期の健康が将来につながっていることを知り、育てる力について学ぶ。子どものからだの発達、心の発達について理解する。 子どもの生活習慣、健康管理、安全対策の重要性について学ぶ。 児童文化財が子どもの発達や生活にどのような影響を及ぼすかを考える 子育てのための社会的支援と権利について理解する。 高齢者の家族との関係や経済状況、社会参加などの実態を学び、介護保険制度のしくみやサービス内容、活動などを理解する。 	
	9	2節 親の役割①② 3節 子育て支援と福祉①② 【第3章 充実した生涯へ】 1節 高齢期を生きる①～③ 2節 高齢社会を支え合う①～③ ・中間考査	3 時間	<ul style="list-style-type: none"> 各自の食生活の問題点について考える。食事の意義について学習する。 栄養素の種類とはたらきについての基礎知識を習得する。 各栄養素のはたらきと多く含む食品について学ぶ。 食品の衛生的管理について学ぶ。食の安全性について考える。 	
	10	【第5章 食べる】 1節 人の一生と食事①～④ 2節 栄養と食品①～③ 3節 食生活の安全のために①②	10 時間	<ul style="list-style-type: none"> 各自の食生活の問題点について考える。食事の意義について学習する。 栄養素の種類とはたらきについての基礎知識を習得する。 各栄養素のはたらきと多く含む食品について学ぶ。 食品の衛生的管理について学ぶ。食の安全性について考える。 	
2 学 期		<調理実習1>	2時間	<ul style="list-style-type: none"> (実1) 和風だしのとりかた・炊飯の原理を考える 環境に配慮した食生活を考える。 	
		<調理実習2>	2時間	<ul style="list-style-type: none"> (実2) オープンの使い方・ルウを用いた料理について 	
		<調理実習3>	2時間	<ul style="list-style-type: none"> (実3) 卵の調理性を知る 	
	11	・期末考査			
	12	4節 食生活をデザインする①～④ 【第6章 装う】 1節 人の一生と被服①～④ 2節 被服の材料と管理①～⑤ 【第7章 住まう】 1節 人の一生と住まい 2節 住生活の計画と洗濯	8 時間 7 時間 7 時間	<ul style="list-style-type: none"> 栄養のバランスの良いやライフステージを考慮した献立を考え、実践できる。 衣服の起源や歴史、風土に適した衣服などの学習を通して、衣服とは何かを理解する。 衣服の機能について、自然環境や社会環境とのかかわりを学習する。 種類と特徴を理解し、用途に応じた選択ができるようになる。 衣生活を計画的に経営できる知識を学ぶ。洗濯のメカニズム・保管方法などについて学ぶ。環境に配慮した衣生活について学習する。 人と住まいについて学び、生活条件と住環境を考える。 住まいの快適さ安心・安全について学び、災害等の対先について考える。 	
3 学 期	3	<生活についての調べ学習>	2時間	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活について調べる。その中で問題を検討し、自分の考えを人に伝えるためのよりよい方法を学ぶ 	
		・期末考査	合計 70 時間		
(評価方法)					
<ul style="list-style-type: none"> 定期テストの点数、授業の取り組み（製作物・学習プリント・学習ノートの提出、実習・討議への取り組み・授業態度など）を総合して評価する。 提出物（製作物、プリント、ノート、資料等）を提出しないと不認定となることがある。 実習等については、出席、身支度（清潔な服装・エプロン・三角巾・マスク・フェイスガード・爪・髪の毛・その他）、取り組み（準備・片付け・清掃を含む）、記録提出等により評価する 欠課が学期の1/5以上の場合には評定を下げる。（1,2学期においては学期の1/3以上欠課した場合は評定を「1」とすることがある。） 学年末については欠課が1/5以上の場合には原則として不認定とする。 					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年	教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科2年	音楽理論	1	楽典・理論と実習	青木千佳

(学習目標)

「移調」「調性判定」を含む楽典の全てが理解できるとともに、全範囲の応用問題を解くことにより、幅広い理解を深める。

学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学 期	4	①移調 ・中間考査	6時間	①移調が正しく行える。 調号→調号、調号→臨時記号、臨時記号→調号、 臨時記号→臨時記号 また種々の移調楽器を理解し、移調楽器の楽譜→実音、 実音→移調楽器の楽譜 への書き換えができる。
	5			
	6	②非和声音 ・期末考査	5時間	②非和声音の種類と意味を理解する。また楽譜から非和声音 を正しく読み取ることができる。
2 学 期	8	①調性判定 ・中間考査	7時間	①単旋律の楽譜を読んで調性が正しく判定できる。また大譜 表、スコアでも同じ作業ができる。
	9			
	10	②和音	8時間	②減五短七、短調のI ₇ 、短調のIII ₇ について理解する。 また、それぞれの和音の所属調に関する応用問題が解ける。 コードネームが理解できる。
	11	・期末考査		
12				
3 学 期	1	①総合問題演習 ・期末考査	9時間	①音大等の入試問題を含む、総合的な範囲から出題されたも のを扱い、あらゆる分野において理解を深める。
	2		年間 合計 35時間	
	3			

(評価方法)

・各定期考査、各長期休業中の課題と実力テスト、出欠状況によって評価する。

(備考・注意事項)

・随時、小テストやミニドリルを行い、理解の度合いを深め個人学習の指針とする。

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科 2年		ソルフェージュ	3	全訳コールユーブンゲン	青木千佳・井出玲子 小山暁香・高砂佑介
(学習目標)					
音楽を構成する諸要素を正しくとらえ、音楽性豊かな表現をするための基礎的能力を養う					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	①コールユーブンゲン	11 X 3時間	①No. 71まで	
	5	②視唱		②調号3つまでの旋律を正しく視唱できる	
	6	③聴音		③調号3つまでの単旋律（記憶を含む）・和音を聴き取ることができる	
	7	・期末考査			
2 学 期	8	①コールユーブンゲン	15 X 3時間	①No. 87まで	
	9	②視唱		②転調を含む旋律を正しく視唱できる	
	10	③聴音		③調号3つまでの曲を聴き取り、大譜表に記譜することができる	
	11	・期末考査			
12					
3 学 期	1	①視唱	9 X 3時間	①移調唱を含めた視唱が正しく行なえる	
	2	②聴音	年間 合計		
	3	・期末考査	35 X 3時間		
(評価方法)					
・各時間の課題、学期毎のテスト、出欠状況によって評価する					
(備考・注意事項)					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者		
音楽科・2学年		演奏研究	1	音楽史を学ぶ(久保田慶一) および はじめての音楽史 片桐 功 著 他	小山暁香		
<p>(学習目標)</p> <p>音楽に関する知識、技能に基づき、創造的な表現方法を習得する。 「バロックの音楽」「前古典派の音楽」までの作品について「時代的、様式的背景」を理解し、個々の楽に 曲ついでのアナリゼを通して、演奏表現に繋がる能力を身に付ける。</p>							
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点			
1 学 期	4	バロックの音楽 《バロックの音楽》 ② バロックの音楽	6時間	<ul style="list-style-type: none"> ルネサンスとの関連および比較的考察ができる。 時代的、様式的背景を把握できる。 イタリアの作曲家 フランスの作曲家 イギリスの作曲家 イタリア古典作品を用いてバロック時代の新たな音楽の特徴や様式について把握し、生徒自らが要点を説明できる。 舞曲の種類と実際のステップを知り演奏表現にどのように繋げるのか考えることができる。 			
	5	②オペラの誕生とヨーロッパ各国の音楽事情(伊・仏・英) 《舞曲》 ①宮殿と舞踏の歴史	5時間				
6	②舞曲の種類と様式 《バロックの器楽》 ①協奏様式 ②組曲						
7	《バロックの様式・形式》 ①バツソコンティヌオ②対比③音型 ・1学期期末考査						
2 学 期	8	バロックのドイツ音楽 《J. S. バッハ》 ・生涯と教会音楽 ・オルガン音楽 ・チェンバロ音楽	15時間	<ul style="list-style-type: none"> オルガンの構造を知り、バロック作品の演奏表現に生かすことができる チェンバロなど撥弦楽器の仕組みを知り、装飾音や前打音など楽曲表現に生かすことができる 大バッハの作品を知り、その生涯について理解を深める。 ヘンデルと劇音楽の背景を知り、オラトリオについて生徒自らがどのような作品なのか説明することができる。 ジングシュピールを鑑賞し、モーツァルト作品の特徴を説明することができる。 オーケストラの標準化とハイドンの交響曲。弦楽四重奏曲について理解を深める 			
	9	・宗教音楽 《G. F. ヘンデル》 ・生涯とオラトリオについて					
	10	・メサイア 《前古典派の音楽》 ・ウィーンについて					
	11	・ギャラント様式 ・大バッハの息子達 《古典派の音楽》					
	12	・ハイドンの功績 ・モーツァルトの生涯と作品 2学期末考査					
3 学 期	1	・ベートーヴェンとソナタ形式 「悲愴」各楽章を用いたアナリゼ	9時間	<ul style="list-style-type: none"> ソナチネ、ソナタの形式分析を実施し、実際の演奏表現に生かすことができる。 			
	2	学年末考査	年間			総合テスト バロック音楽の特徴と様式 古典派の特徴と形式 ソナタ形式分析	
	3		合計 35時間				
<p>(評価方法) 修正あり</p> <p>・筆記テストまたはレポート(1, 2, 3学期) ・その他、授業態度(演奏への参加の状況) 出席状況を考慮して評価する。</p>							
<p>(備考・注意事項)</p> <p>・1単位の授業であるため、欠課時間は各自充分に把握しておくこと。 ・プリント資料を多く配布します。整理保存をきちんとしておくこと。(点検有り)</p>							

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科全学年		合唱・合奏	1		青木・井出・小山・高砂 ・滝沢・依田
<p>(学習目標) 専門的な知識や技能を総合的に働かせ、表現内容を解釈したり音楽の文化的価値について考え、表現意図を明確に持つ。</p>					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	近現代ヨーロッパ作品 ・実技テスト	11時間	正しい音程で、バランスを考えながら演奏する。(技能)	
	5			様々な演奏家による演奏を聴き、理由を述べて評価する。 (知識・理解)	
	6			楽譜から作曲者が意図している音楽表現を読み取り、意欲を持って演奏する。(関心・意欲・態度)	
	7				
2 学 期	8	現代邦人作曲家作品(合唱) 組曲または交響曲(合奏) ・実技テスト	15時間	曲にふさわしい発声・音色を工夫して演奏する。(技能)	
	9			旋律やその重なりを聴き取り、それらが生み出す特徴を感じ取りながら、互いの旋律が生きるように演奏を工夫する。(思考・判断・表現)	
	10			パート練習において、自ら課題を発見し、協働して練習方法を工夫しながら合唱・合奏に生かす。 (関心・意欲・態度)	
	11				
	12				
3 学 期	1	ルネサンス作品(合唱) バロック・古典派の作品 (合奏) ・実技テスト	9時間	曲想と音楽の構造や時代背景との関わりについて理解する。 (知識・理解)	
	2		年間 合計 35時間	旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら演奏方法を考え、意図をもって演奏する。(思考・判断・表現)	
	3				
<p>(評価方法) 授業における取り組み・発言の状況、実技テスト、教師による行動観察で評価する。</p>					
<p>(備考・注意事項)</p>					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科全学年		重唱・重奏	1		青木・井出・小山・高砂 ・滝沢・依田
(学習目標) 専門的で幅広く多様な楽曲について理解を深め、感性を磨き、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付ける。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	近現代ヨーロッパ作品	11時間	異なる旋律の重なり合いを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして演奏する。(技能)	
	5			曲想を音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。(知識・理解)	
	6			楽譜から作曲者が意図している音楽表現を読み取り、意欲を持って演奏する。(関心・意欲・態度)	
	7	・実技テスト			
2 学 期	8	現代邦人作品(重唱) ロマン派作品(重奏)	15時間	曲にふさわしい発声・音色を工夫して演奏する。(技能)	
	9			お互いの演奏を聴きながら、曲や演奏に対する評価とその根拠を考え、曲のよさや美しさを味わう。(思考・判断・表現)	
	10			曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。(関心・意欲・態度)	
	11				
	12			・実技テスト	
3 学 期	1	ルネサンス作品(重唱) バロック・古典派の作品 (重奏)	9時間 年間 合計 35時間	曲想と音楽の構造や時代背景との関わりについて理解する。(知識・理解)	
	2			旋律の重なりや掛け合いを聴き取り、それらの働きが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら聞き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見いだす。(思考・判断・表現)	
	3			・実技テスト	
(評価方法) 授業における取り組み・発言の状況、実技テスト、教師による行動観察で評価する。					
(備考・注意事項)					